

## 台湾を活用してコンテンツ輸出を目指す日本テレビ

黒剣テレビ節目製作股份有限公司は、日本テレビ放送網株式会社と台湾最大の総合メディアグループの旺旺中時媒体集團傘下の中天電視会社が、中華圏での事業拡大に向け合併で設立した企業である。テレビ局が番組コンテンツの海外展開を行う際は、放送権販売の形態をとることが多い中、地場企業との緊密な連携を取りながら、中華圏で受け入れられるコンテンツ制作をパートナーと共同で行うという先進的な取り組みを行っている。今回は、黒剣テレビ節目製作股份有限公司の十川(そごう) 董事兼副總經理を訪ね、現在の事業内容、そして今後の事業展開についてお話を伺った。



黒剣テレビ節目製作股份有限公司 十川淳董事兼副總經理

### —台湾進出の経緯について

黒剣テレビ節目製作股份有限公司(以下、当社)は、台湾の大手メディアグループの中天電視股份有限公司(以下、中天電視)と合併にて2011年5月に設立されました。日本テレビと中天電視及び親会社である旺旺中時媒体集團は、2010年3月の包括的協力協定の締結を機に、相互の事業面での協力関係強化を検討していました。そして、日本のコンテンツを台湾だけでなく、中国大陸を含めたアジアに展開すること視野に入れ、その第一歩として、台湾での拠点設立を決定しました。

日本テレビは、コンテンツ販売での海外展開は以前より行ってきましたが、地場企業との合併を組んで拠点を設立するのは台湾が初めてです。通常、日本のメディア企業が海外事業を展開する際には、番組の放送権あるいはリメイク権を海外テレビ局に販売する形態が主流ですが、弊社はそこから一歩踏み込んで、現地でパートナー企業とタッグを組む形でのコンテンツ制作を重視しています。このような取り組みは、日本テレビ内で初というだけでなく、日本の他局でも行われていない革新的な取り組みです。中天電視にとっても、日本の番組制作のノウハウの獲得が望めるため、双方にとってメリットのある合併であると考えています。

日本企業がメディア関連事業において、独自に中華圏での展開を図ることはかなりハードルが高いと考えています。そんな状況の中、日本の番組が広く受け入れられており、番組制作の技術も一定水準を有する台湾は、パートナーとしてとても魅力的でした。中天電視は、関連会社に新聞・雑誌なども持つメディアグループですので、個別の番組販売などの短

期的な連携ではなく、双方の強みを生かした長期的な関係構築が可能です。

### —台湾拠点の事業内容について

当社は、主にテレビ番組製作事業と観光PR及びイベント関連事業の2つの事業を展開しています。前者については、ドラマやバラエティー番組を制作しています。台湾に進出後はじめに手掛けた番組は、日本で以前放送されて人気を博したドラマ「星の金貨」のリメイクドラマ(中国語名「白色之戀」)でした。その後、バラエティー番組の制作や当社オリジナルドラマの制作へと、徐々に事業範囲を広げています。

バラエティー番組では、過去には芸能人家族4人が台湾を旅する「全家出走中」など、現在放送されているものではある分野で活躍している方に、その分野以外での夢を実現してもらうという番組「背包踐客」(中天娛樂チャンネル39chで日曜日午後9時～)を制作しています

観光PR事業は、主に政府系の観光イベントを中心に実施しています。2012年には、台湾の観光PR事業を東京の日本テレビ本社の汐博ステージで行い、日本テレビの各番組で取り上げられました。また、日本ハムファイターズで活躍中の台湾人プロ野球選手である陽岱鋼選手の台湾観光親善大使就任イベントや、北京・上海・廣州及び香港で行われた台北市の観光誘致イベント「FUN TAIPEI, BY MY WAY」なども、当社が担当しました。それ以外にも、台湾と中国の映画協会の交流会の開催など様々なイベントを支援してきました。

## 日本企業から見た台湾

### 台湾市場の特徴について

台湾市場は、テレビ局が非常に多いのが最大の特徴です。地上波とケーブルテレビを合わせると、一般の家庭で見られるチャンネル数はおよそ100チャンネルに達します。チャンネル数が多いことで、各番組の視聴率も分散して下がり、(平均視聴率は人気の高い番組でも1%を超える程度が多い)、広告収入も多くの局で取り合いになっているのが現状です。そのため、日本に比べて低コストでの番組制作を強いられます。ドラマを例にとると、1話の尺の長さの違いがあるにも関わらず(日本は一話60分、台湾は一話90分)、制作費は日本の半分にも満たないケースが散見されます。またバラエティー番組では、その特徴が更に顕著に表れており、日本の制作費の1/4以下という状況も珍しくありません。そのため、スタジオでのトークだけの番組が多くなったり、音声や照明の使い方が安易になる傾向があります。

また、番組制作にあたっての日台の姿勢の違いの一つとして、日本ではテレビ局が主体となって番組作りを行うことが多いのですが、台湾ではほとんどが番組制作会社に外注され、テレビ局のプロデューサーが番組の制作演出に深く介入しないことが多いように思います。また、既存の番組を購入するだけのケースもよくみられます。

その他に、人材の流動性が非常に高いのも特徴です。現場のスタッフレベルの人材流動にとどまらず、経営層で同じことが起こることにも驚きました。また、近年特に、優秀なスタッフ・出演者が中国大陆のテレビ局及び番組制作会社から引き抜かれるケースも多いと聞いています。

一方で、ポジティブな面として報道の自由度が非常に高い点では、日本が見習っていくべきケースも多いと思います。また、番組については、出演者、脚本、監督、音楽などについて制作の段階でテレビ放送、インターネット配信、海外への供給などをAll Rightで契約することが通常となっています。この点については、インターネットを通じて、コンテンツのグローバル化が必要となる中で、台湾が日本より進んでいる分野だと考えます。

### 今後の事業展開について

当社は設立から現在まで、基本的には合弁先の中天電視向けに番組の制作・供給をしてきましたが、今後は他局向け

の番組制作についても検討していく予定です。日本のミステリー、サスペンス、若手俳優を起用した青春ドラマのプロットは、台湾でも高く評価されており、このような日本のコンテンツ力を台湾でも存分に発揮していきたいと思います。具体的には、日本で過去に放送されたドラマのリメイクを、台湾現地のスタッフとともに実施していきたいと思います。韓国では既に「家政婦のミタ」、「女王の教室」、「ハケンの品格」など日本でヒットしたドラマが、リメイクされて好評をいただいております。これらのコンテンツは台湾でも高い人気があったため、中華圏への展開を検討しているところです。

日本テレビのコンテンツをベースとして台湾地場の制作会社と組んでコンテンツの現地化を行い、パートナー企業や他局への販売を行うことで、中華圏に受け入れられやすい形で中華圏の視聴者に幅広くコンテンツをお届けできると考えています。その延長線として、中国のテレビ局やIPTV会社ともタッグを組む形での番組制作にも取り組んでいく予定です。

また、観光PR事業やイベント関連事業については、今までは主に台湾の政府系のイベントを台湾内外で支援してきましたが、逆に日本テレビが国内で主催しているイベント(絵画展、プロジェクションマッピングを利用したイベントなど)の台湾での開催も検討しています。

日本テレビが有するテレビ番組やそれら以外のコンテンツについて台湾を含めた中華圏に展開する際に、当社が重要な役割を担っていければと考えています。

ありがとうございました。

### 黒劍電視節目製作(股)有限公司の基本データ

会社名	黒劍電視節目製作股份有限公司
董事長	蔡紹中
設立	2011年5月
資本金	3億元
従業員	約18名(内、日本人1名)
事業内容	・テレビ番組制作 ・テレビ番組素材リサーチ/ 取材コーディネート ・観光PR事業 ・イベント関連事業

注)2015年3月時点のデータによる  
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理